



# 送信者 レピュテーション フィルタリング

この章は、次の項で構成されています。

- [送信者 レピュテーション フィルタリングの概要](#) (1 ページ)
- [SENDERBASE レピュテーション サービス](#) (1 ページ)
- [リスナーの送信者 レピュテーション フィルタリング スコアのしきい値の編集](#) (5 ページ)
- [メッセージサブジェクトへの低 SBRS スコアの入力](#) (7 ページ)

## 送信者 レピュテーション フィルタリングの概要

送信者 レピュテーション フィルタリングは、スパム対策の最初のレイヤです。Cisco SENDERBASE™の レピュテーション サービスにより決定される送信者の信頼性に基づいて、電子メールゲートウェイ経由で送信されるメッセージを制御できます。

アプライアンスは、既知または信頼性の高い送信者、つまりお客様やパートナーなどからのメッセージを受け取り、コンテンツスキャンを一切実施しないでエンドユーザに直接配信できます。未知または信頼性の低い送信者からのメッセージは、アンチスパムおよびアンチウイルススキャンなどのコンテンツスキャンの対象にできます。また、各送信者から受け入れるメッセージの数をスロットリングすることもできます。信頼性の最も低い電子メール送信者に対しては、設定に基づいて接続を拒否したり、その送信者からのメッセージを送り返したりできます。



(注) [ファイル レピュテーション フィルタリング](#)は別のサービスです。詳細については、[ファイル レピュテーション フィルタリングとファイル分析](#)を参照してください。

## SENDERBASE レピュテーション サービス

SENDERBASE 関係会社のネットワークからのグローバルデータを使用する Cisco SENDERBASE レピュテーション サービスは、クレーム率、メッセージ量の統計情報、および公開ブロックリストやオープンプロキシリストからのデータに基づいて、電子メール送信者に SENDERBASE

レピュテーションスコアを割り当てます。SENDERBASE レピュテーションスコアは、正当な送信者とスパム発信元を区別する際に役立ちます。レピュテーションスコアの低い送信者からのメッセージをブロックするしきい値を指定することも可能です。

SENDERBASE セキュリティネットワーク Web サイト (<https://talosintelligence.com>) では、最新の電子メールおよび Web ベースのグローバルな脅威の概要を提供し、現在の電子メールトラフィック量を国別に表示します。また、IP アドレス、URI、またはドメインに基づいてレピュテーションスコアを検索できます。



(注) SENDERBASE レピュテーションサービスは、現在のスパム対策ライセンスキー以外では使用できません。

#### 関連項目

- [SENDERBASE レピュテーションスコア \(SBRs\) \(2 ページ\)](#)
- [SENDERBASE レピュテーションフィルタの仕組み \(3 ページ\)](#)
- [さまざまな送信者レピュテーションフィルタリング手法の推奨設定 \(4 ページ\)](#)
- [アウトブレイク フィルタ](#)
- [電子メールセキュリティ モニタの使用方法](#)

## SENDERBASE レピュテーションスコア (SBRs)

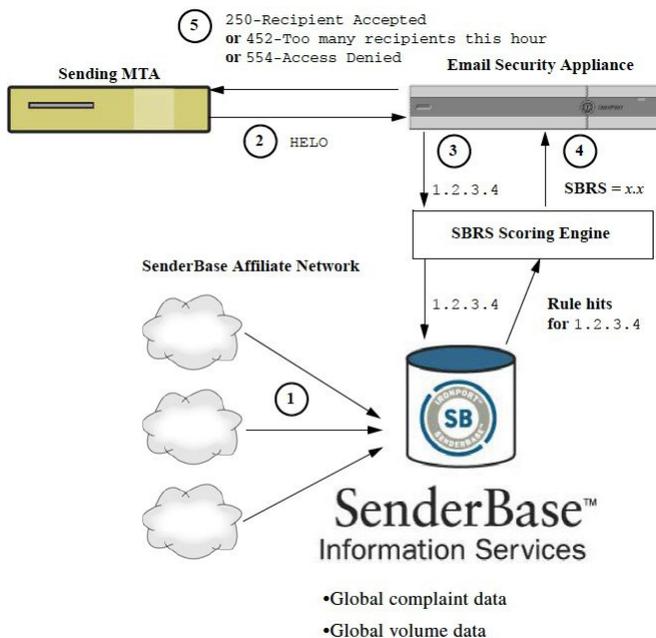
SENDERBASE レピュテーションスコア (SBRs) は、SENDERBASE レピュテーションサービスからの情報に基づいて、IP アドレスに割り当てられる数値です。SENDERBASE レピュテーションサービスは、25 個を超える公開ブロックリストおよびオープンプロキシリストのデータを集約し、さらにこのデータを SENDERBASE のグローバルデータと組み合わせて、次のように -10.0 ~ +10.0 のスコアを割り当てます。

スコア (Score)	意味
-10.0	スパムの送信元である可能性が最も高い
0	中間か、または推奨を行うための十分な情報がない
+10.0	信頼できる送信者である可能性が最も高い

スコアが低いほど、メッセージがスパムである可能性は高くなります。スコアが -10.0 であれば、そのメッセージはスパムであると「保証」されていることを意味し、スコアが 10.0 であれば、そのメッセージは正規であると「保証」されていることを意味します。

SBRs を使用して、信頼性に基づいてメールフローポリシーを送信者に適用するようにアプライアンスを設定します。メッセージフィルタを作成して SenderBase レピュテーションスコアに「しきい値」を指定し、システムで処理されるメッセージにさらにアクションを実行できます。詳細については、[SENDERBASE レピュテーションルールおよびアンチスパムシステムのバイパスアクション](#)を参照してください。

図 1: SENDERBASE レピュテーションサービス



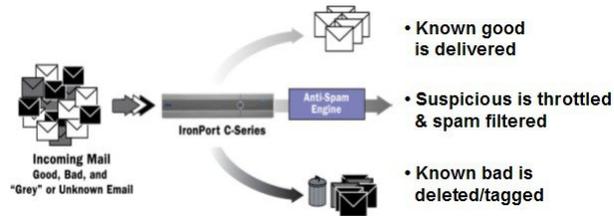
1. SENDERBASE 関連会社から、リアルタイムのグローバルデータを送信します。
2. 送信側 MTA により、アプライアンスとの接続が開始されます。
3. アプライアンスにより、接続 IP アドレスのグローバルデータがチェックされます。
4. SENDERBASE レピュテーションサービスにより、このメッセージがスパムである可能性が計算され、SENDERBASE レピュテーションスコアが割り当てられます。
5. シスコにより、SENDERBASE レピュテーションスコアに基づいて応答が返されます。

## SENDERBASE レピュテーションフィルタの仕組み

送信者レピュテーションフィルタテクノロジーは、アプライアンスに搭載されているその他のセキュリティサービスの処理から、できる限り多くのメールを切り離すことを目的としています ([電子メールパイプラインについて](#) を参照)。

送信者レピュテーションフィルタリングがイネーブルになっている場合は、既知の悪質な送信者からのメールだけが拒否されます。世界中の 2000 社から送信された既知の良好なメールは自動的にスパムフィルタを避けてルーティングされるため、誤検出の可能性が低減されます。未知、または「灰色」の電子メールは、アンチスパム スキャン エンジンにルーティングされます。送信者レピュテーションフィルタは、この方法を使用して、コンテンツフィルタにかかる負荷を最大 50% 低減できます。

図 2: 送信者レピュテーションフィルタリングの例



## さまざまな送信者レピュテーションフィルタリング手法の推奨設定

企業の目的に応じて、Conservative、Moderate、Aggressive のいずれかの方法を選択できます。

アプローチ	特性	Allowed_List	Blocked_List	SUSPECTLIST	UNKNOWNLIST
Sender Base レピュテーションスコア範囲：					
Conservative	誤検出はほぼ0。良好なパフォーマンス。	7 ~ 10	-10 ~ -4	-4 ~ -2	-2 ~ 7
Moderate (インストール時のデフォルト)	誤検出は非常に少ない。高パフォーマンス。	Sender Base レピュテーションスコアは使用されません。	-10 ~ -3	-3 ~ -1	-1 ~ +10
アグレッシブ	誤検出はいくらか発生。パフォーマンスは最大。  このオプションは、ほとんどのメールをアンチスパム処理から切り離します。	4 ~ 10	-10 ~ -2	-2 ~ -1	-1 ~ 4
すべての方式		メールフローポリシー：			
		信頼できる	ブロック	スロットル	承認 (Accepted)

# リスナーの送信者レピュテーションフィルタリングスコアのしきい値の編集

デフォルトの SENDERBASE レピュテーションサービス (SBR) スコアのしきい値を変更またはレピュテーションフィルタリングに送信者グループを追加する場合は、この手順を使用します。



(注) (SBR)スコアのしきい値に関連するその他の設定およびメールフローポリシーの設定については、[ホストアクセステーブルを使用した接続を許可するホストの定義](#)に記載されています。

## はじめる前に

- アプライアンスがローカル MX/MTA から電子メールを受信するように設定されている場合は、送信者の IP アドレスをマスクする可能性のあるアップストリーム ホストを特定してください。詳細については、[着信リレー構成における送信者の IP アドレスの決定](#)を参照してください。
- SENDERBASE レピュテーションスコアについて理解します。[SENDERBASE レピュテーションスコアを使用した送信者グループの定義](#)を参照してください。
- 組織のフィルタリング方法を選択し、このアプローチの推奨設定を確認します。[さまざまな送信者レピュテーションフィルタリング手法の推奨設定 \(4 ページ\)](#)を参照してください。

**ステップ 1** [メールポリシー (Mail Policies)] > [HAT概要 (HAT Overview)] を選択します。

**ステップ 2** [送信者グループ (リスナー) (Sender Groups (Listener))] メニューからパブリック リスナーを選択します。

**ステップ 3** 送信者グループのリンクをクリックします。

たとえば、「SUSPECTLIST」のリンクをクリックします。

**ステップ 4** [設定の編集 (Edit Settings)] をクリックします。

**ステップ 5** 送信者グループの SENDERBASE レピュテーションスコアの範囲を入力します。

たとえば、「ALLOWED\_LIST」に 7.0 ~ 10 の範囲を入力します。

**ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックします。

**ステップ 7** 必要に応じてこのリスナーの各送信者グループに対し、繰り返し実行します。

**ステップ 8** 変更を確定します。

## 次のタスク

## 関連項目

- [SBRS を使用した送信者レピュテーションフィルタリングのテスト \(6 ページ\)](#)
- [SENDERBASE レピュテーションサービスのステータスのモニタリング \(7 ページ\)](#)
- [ホストアクセステーブルを使用した接続を許可するホストの定義](#)
- [メッセージがスパムかどうかスキャンするためのアプライアンスの設定方法](#)

## SBRS を使用した送信者レピュテーションフィルタリングのテスト

常時大量のスパムを受信しているか、または組織に対するスパムを受信するために「ダミー」のアカウントを特に設定していない限り、実装した SBRS ポリシーをただちにテストすることは困難です。ただし、次の表に示すように、リスナーの HAT に SENDERBASE スコアによるレピュテーションフィルタリングのエントリを追加した場合は、受信メールのうち「未分類」になるパーセンテージが低くなります。

このポリシーは、任意の SBRS を指定し、`trace` コマンドを使用してテストします。「[テストメッセージを使用したメールフローのデバッグ：トレース](#)」を参照してください。`trace` コマンドは、GUI だけでなく CLI でも使用できます。

表 1: SBRS 実装の推奨メールフローポリシー

ポリシー名	主な動作 (アクセスルール)	パラメータ	値
\$BLOCKED	REJECT	None	
\$THROTTLED	ACCEPT	Maximum messages / session: Maximum recipients / message: Maximum message size: Maximum concurrent connections: Use Spam Detection: Use TLS: Maximum recipients / hour: Use SenderBase:	10 20 1 MB 10 オン オフ 20 (推奨) オン
\$ACCEPTED (パブリック リスナー)	ACCEPT	Maximum messages / session: Maximum recipients / message: Maximum message size: Maximum concurrent connections: Use Spam Detection: Use TLS: Use SenderBase:	1,000 1,000 100 MB 1,000 オン オフ 点灯

ポリシー名	主な動作（アクセスルール）	パラメータ	値
\$TRUSTED	ACCEPT	Maximum messages / session: Maximum recipients / message: Maximum message size: Maximum concurrent connections: Use Spam Detection: Use TLS: Maximum recipients / hour: Use SenderBase:	1,000 1,000 100 MB 1,000 オフ 消灯 -1（無効） OFF



(注) \$THROTTLED ポリシーでは、リモートホストから受信する1時間あたりの最大受信者数は、デフォルトで1時間あたり20人に設定されています。この設定により、使用可能な最大スロットリングが制御されることに注意してください。このパラメータが厳しすぎる場合は、時間あたりの受信者数を増やすことができます。デフォルトのホストアクセスポリシーの詳細については、[定義済みの送信者グループとメールフローポリシーの理解](#)を参照してください。

## SENDERBASE レピュテーションサービスのステータスのモニタリング

SENDERBASE レピュテーションスコア サービスは、SBRSSコアをアプライアンスに送信します。SENDERBASE ネットワークサーバは、アプライアンスにメール送信元のIPアドレス、ドメイン、および組織についての情報を送信します。AsyncOS は、このデータをレポート作成および電子メールモニタリング機能に使用します。

これらのサービスへの接続ステータスを表示するには、[セキュリティ サービス (Security Services)] > [SENDERBASE サービスログ (Service Logs)] の順に選択します。

[セキュリティ サービス (Security Services)] メニューの [SENDERBASE サービスログ (Service Logs)] ページには、アプライアンスから SENDERBASE ネットワーク ステータスサーバおよび SENDERBASE レピュテーションスコア サービスに対して最後に実行したクエリの接続ステータスとタイムスタンプが表示されます。

CLI で `sbstatus` コマンドを使用しても、同じ情報を表示できます。

## メッセージサブジェクトへの低 SBRSSコアの入力

スロットリングを推奨しますが、SENDERBASE レピュテーションサービスを使用して、スパムの疑いのあるメッセージの件名行を変更するという別の方法もあります。これを行うには、次の表に示すメッセージフィルタを使用します。このフィルタは、`reputation` フィルタルール、

strip-header および insert-header フィルタアクションを使用して、SENDERBASE レピュテーションスコアが -2.0 未満のメッセージの件名行を実際の SENDERBASE レピュテーションスコアを含む件名行に置き換えます。{Spam SBRS} のように表されます。この例の listener\_name を、ご使用のパブリックリスナーの名前に置き換えます（このテキストを切り取って filters コマンドのコマンドラインインターフェイスに直接貼り付けできるように、この行自体にピリオドが含まれています）。

表：件名ヘッダーを SBRS に変更するメッセージフィルタ：例 1

```
sbrs_filter:

if ((recv-inj == "listener_name
" AND subject != "\\{Spam -?[0-9.]+\\}")

{

    insert-header("X-SBRS", "$REPUTATION");

    if (reputation <= -2.0)

    {

        strip-header("Subject");

        insert-header("Subject", "$Subject \\{Spam $REPUTATION\\}");

    }

}

.
```

#### 関連項目

- [メッセージフィルタを使用した電子メールポリシーの適用](#)